

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 102

学校名・団体名	東みよし町立足代小学校
HPアドレス	http://h-miyoshi.ed.jp/ashiro
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域の文化や産業を学び，地域に貢献・提案する 学習
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>校区の伝統文化や産業，観光資源など，知っているようで知らない校区の魅力に気づくために，子ども達が地域を歩き，取材し，そこで見つけた伝統文化財，特産物，産業や興行，特徴的な商品などについて，くわしく調べ，写真入りの冊子を作成した。インタビューや写真撮影を中心とし，何度も原稿を修正しながら，その魅力を伝えるための記事作りを通して，総合的な情報活用能力の育成を行った。</p>	

<活動・研究報告>

本活動の流れは次の通りである。

1 テーマ設定

本校の校区には、ハイウェイオアシスがある。同じハイウェイオアシスのある、刈谷では年間に有名テーマパークをしのぐ来客数を誇るということを知り、足代の魅力をもっともっと発信していくことが大事だということに気付く。

2 校区の魅力について話し合う

子ども達が考える足代の魅力について意見を出しあい、9つのテーマに絞る。その後グループ分けをして年間の活動計画を立てた。



テーマについての投げかけ



グループに分かれて相談



取材場所や内容を共有

3 取材開始

まずは、ハイウェイオアシスに行き、観光客の視点で、どんな物が売られているか、どこに、どのくらいの人が集まっているかなどについて取材を始めた。ちょうどその頃、オアシス内にホテルが完成することを知り、そのホテルを見学させてもらい、地域の魅力や、これから始まる観光の状況などを取材した。

そして夏から秋にかけて季節に応じた取材を次々に行った。取材相手との交渉を行い、同時に、タブレット対応のアプリについての内容を考え、どのようなコンテンツを作るかについての準備も行った。

取材を通して、神社の話から足代の歴史的な変遷や、伝統的な獅子舞の伝承に関する話など、地域の方でないと聞けない話がたくさん聞け、改めて自分たちの地域の伝統を感じるようになった。さらに、愛宕柿やまゆに関する話を聞き、かつて盛んだった地域の伝統産業のことで、なぜそれが始まったのか、そして現在どのような課題を抱えているのかなどについて聞き、自分のこととして、課題意識を持つようになった。



様々な場所、人への取材活動

4 編集作業

各グループに分かれて行った取材をもとに、①写真展②アプリコンテンツ③冊子作りと、3つの作業を並行して行った。

① 写真展

撮影した写真を選び、トリミングをしながら、最もよく撮れている写真を選ぶ。このとき、9分割した画面の中で、位置を考えながら中心点を決めていく方法を学び、互いに評価しながら作品を仕上げていった。また、その写真に対するキャプションを考え、直接的な言葉を使わずに写真がさらによりよく見えるための言葉を添えるようにした。A2の大きさのパネルにするため、データが重くなり、PCが固まってやり直すなど、苦労しながら完成させた。実際に印刷するまで小さな面積でしか確認しなかったため、大きく印刷されたときの喜びはとても大きいものになった。

② コンテンツ作り

冊子に組み込むアプリのコンテンツとして、撮影した写真のスライドショー作りと、それにそえる解説文を作成し、子ども達の声で朗読したものを録音するようにした。録音では、初めての言葉をいかにはっきりと話すか、聞いている人が写真に合わせえて話が理解できるようにするには、どこで切った方がいいかなど、何度も繰り返しながらコンテンツづくりを行った。

③ 冊子作り

これまでの取材やインタビューを通して、魅力ある文章を作成することと、写真雑誌としてクオリティの高い内容にするため、手本となる機内誌などを参考にし、レイアウトやキャプションにこだわった内容となるように何度も校正を繰り返した。取材してきたことを記事として書き上げるには、文章の量や、写真とのバランス、見出しなど工夫する部分がたくさんある。そして、手に取って読みたくなるための書き出しの工夫などにもこだわり、推敲を重ねていった。

取材はグループで行っても、冊子づくりの誌面は、1人が見開き1ページを担当するため、同じ写真が使われることになる。できるだけそうならないように、同じ写真でもトリミングをして中心となる部分をずらして使うなど、工夫を凝らして作成した。どうしても写真が足りないときは、もう一度取材にいたり、他の学年が校区探検をしたときのデータをもったりして、仕上げていった。



アプリの動作確認



校正作業



コンテンツの録音



アプリの動作確認



学習発表会での披露



町長への贈呈

5 地域の人への披露

これまで苦労を重ね、大切に仕上げてきた成果物を地域の方が集まる学習発表会で披露し、大勢の方にその内容を見てもらうことができた。また、新聞記事にも何度も取り上げられ、学校の活動を応援してくれる方が増えた。さらに、地域の方からの評価の声が学校に直接届けられ、子ども達も自分達の取り組みが、地域の人の喜びにつながっていることを実感した。

成果物である「足代の魅力セレクト9」という冊子は、この活動の当初の目的である吉野川ハイウェイオアシスの活性化に役立ててもらおうと、子どもたち自身が届けた。さらに、町役場の産業課や企画課にも届けると、ちょうど町長にも直接わたしてほしいとの話があり、冊子を作った思いを子ども達が直接町長に話すことができた。

6 子ども達の感想

子ども達からは、

「この一年間作ってきた足代の良いところを集めたパンフレットが完成しました。ぼくは、吉野川のことについて調べました。でもはじめは、川なんて調べても何もネタがないと思っていましたが、一つわかったらまた一つナゾが増えて、またわかってナゾができての繰り返しで、結構大変で、それが楽しかったです。いい思い出がまた一つ増えた気がします。」

「こんなに本格的にできるとは思っていなかったの、とても満足しています。マチアルキのアプリも家の人とやってみました。写真を読み込むと、説明が出るようにしていたので、びっくりしていました。自分たちが作ったこの本が完成して、とってもうれしかったです。」

というような、地域の再発見という気持ちが高まった内容や、家族でこの冊子についての話をしたことなど、子ども達の自己肯定感の向上につながった内容がたくさん見られた。さらに、情報を発信することの大変さを実感した感想も聞かれ、情報活用能力の育成にもつながったと思われる。

7 今後の展開

本校で行ったこの取り組みは、地域の産業や、伝統文化を調べる総合学習の取り組みとして実施できることが分かったので、来年度は町内全ての小学校でこれらの取り組みを進めていけるように、教育委員会や町当局と連携して準備を進めていくことになった。そしてその際、本校の実践者が他校の実施サポートを担うことができると思う。



徳島新聞

